PIONEER the NEXT FUTURE

ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査

双日テックイノベーション株式会社

有効回答数 n=110

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日

調査・制作｜株式会社IDEATECH

Stechi
sojitz Tech-Innovation

調査概要

- 調査名称：ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査
- 調査機関：双日テックイノベーション株式会社
- 調査方法：IDEATECHが提供するリサーチマーケティング「リサピー®」の企画による
  インターネット調査
- 調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
- 有効回答：従業員数1,000名以上の企業に勤務し、ITプロジェクト（システム開発・導入・保守運用など）でPMまたはPMOの業務に携わり、現在2件以上の案件を担当している方110名
  割付：担当案件数（2～3件／4～5件／6～10件／11件以上）で均等割付

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

はじめに

■ 複数案件を並行して進めることが、大手企業の前提になっている

基幹システムの刷新、クラウド移行、データ活用、AIの導入など、企業が進める情報システム施策は広がっています。特に大手企業では、複数のプロジェクトを並行して動かしながら、限られた人員でどの案件を優先するか判断する必要があります。

■ 案件横断の見えにくさが、PM・PMOの判断を遅らせる

しかし、案件ごとに管理ツールやフォーマットが異なり、連絡やファイルがメール、チャット、会議に分かれると、全体像をつかむたびに情報を集め直さなければなりません。個別案件は管理できていても、複数案件を束ねると、遅延の兆候、リスク、優先順位、担当者の負荷が見えにくくなります。案件横断の見えにくさが、プロジェクトマネージャー（PM）やプロジェクト管理を支援する部門・担当（PMO）の判断を遅らせています。

■ 調査の概要と主な結果

本調査では、従業員数1,000名以上の企業に勤務し、ITプロジェクトでPMまたはPMOの業務に携わり、現在2件以上の案件を担当している110名を対象に、複数案件の管理方法、横断把握の難しさ、確認・報告にかかる時間、生成AI・AIエージェント（以下、AI）への期待を調査しました。

調査では、進捗や課題の管理方法・フォーマットが案件ごとに分かれている方は90.9%、複数案件を横断した全体状況の把握に難しさを感じる方は90.0%でした。状況確認や報告用の集計に週3時間以上を費やす方は55.5%、対応判断が遅れた経験を持つ方は84.5%に達しています。

■ 本レポートの構成

本レポートでは、複数案件の管理がどこで分断され、なぜ判断の遅れにつながるのかを整理します。さらに、PM・PMOが情報を集める作業を減らし、優先順位や対応方針を考える時間を確保するために必要な管理の仕組みを考察します。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

ITプロジェクトを取り巻く環境変化と、複数案件管理の必要性

■ 大手企業で、DXとAIの導入が広がる

情報処理推進機構「DX動向2026」では、従業員1,001人以上の回答企業の98.7%がDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組み、78.3%がAIを導入していました。施策が並行して動く企業では、案件を横断した状況把握の必要性が高まります。

■ プロジェクトの複雑化が、判断と連携を難しくする

プロジェクトマネジメント協会（PMI）が35か国で行った調査では、従事者の81%が近年プロジェクトは以前より複雑になったと回答しました。複雑なプロジェクトの31%は、当初想定した効果をすべて実現できていません。

■ 人材不足の中、全体状況を把握する仕組みが求められる

情報処理推進機構の同調査では、デジタル変革を担う人材の量が不足していると答えた企業が85.5%でした。デジタル庁のガイドラインも、各プロジェクトの実施状況を集約し、全体を継続的に把握する必要を示しています。
管理表を案件ごとに増やすのではなく、共通の基準で複数案件を見渡す仕組みが、支援が必要な案件の早い判断につながります。

参照：
情報処理推進機構「DX動向2026のポイント」（2026年）
Project Management Institute「Pulse of the Profession 2026: Driving Success in Complex Projects」（2026年）
デジタル庁「デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン 解説書 第3編第2章 プロジェクトの管理」（2026年）

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

この資料で判断できること

判断が遅れる構造を整理し、優先的に整えるべき管理要件を確認したうえで、
自社に適した対応方針を比較検討できます。

01	02	03
構造理解	**要件整理**	**方針比較**
情報／管理／判断の3層で 構造的に整理	優先的に整えるべき 6つの管理要件を確認	Excel継続／既存強化／ 統一基盤／AI支援を比較

▸ 01から03の順に読むと、自社が次に着手すべき課題が絞り込めます。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査

調査結果

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果のサマリー

1. 案件ごとに分断された管理
進捗や課題の管理方法・フォーマットが案件ごとに分かれている職場は9割を超え、統一は7.3%にとどまる。

2. 9割が感じる横断把握の壁
複数案件を横断した全体状況の把握に難しさを感じる担当者は9割、最大の難所は「遅延の兆候の早期発見」

3. 会議と遡り確認に頼る把握
状況把握は「会議での進捗の聞き取り」が66.4%で首位、「メール・チャットのさかのぼり確認」も55.5%。

4. 8割超が経験した判断の遅れ
確認・報告集計に週3時間以上を費やす層は55.5%、把握の遅れで対応判断が遅れた経験は84.5%にのぼる。

5. AIに期待する報告と判断支援
AIに期待することは「報告用の資料やレポートの作成」が62.7%、「優先順位づけの支援」が48.2%で上位。

【大手企業のPM・PMOに広がる「案件ごとの分断」と判断の遅れ】

案件ごとには管理できていても、束ねた途端に全体が見えなくなる。大手企業のPM・PMOが直面しているのは、この構造的な死角である。管理の器が案件単位で閉じているため、全体像の再構成は人の記憶と遡り確認に依存し、判断の前段に「集める作業」が積み上がる。その代償が、フォローや対応の判断機会を逃した経験84.5%という数字に表れている。見直しの必要性は95.4%が認識済みであり、論点はすでに「着手すべきか」ではなく「どう仕組みに落とすか」へ移っている。

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

複数案件管理を担当するPM／PMOが直面する共通課題

約9割が「フォーマットの分断」と「横断把握の難しさ」に直面しています。

90.9%

案件ごとの管理方法・フォーマットが分かれている

出典: WP-Q2 分かれている計

90.0%

横断した全体状況の把握に難しさを感じる

出典: WP-Q4 難しさ計

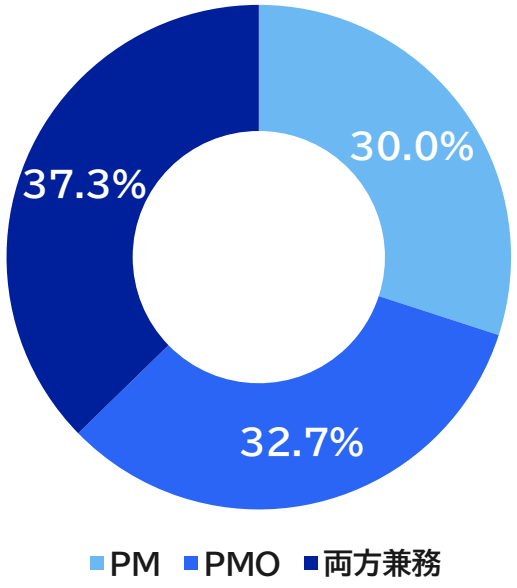
案件単体は管理できていても、束ねると全体像を再構成する作業が発生し、意思決定に時間がかかる。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査対象の内訳

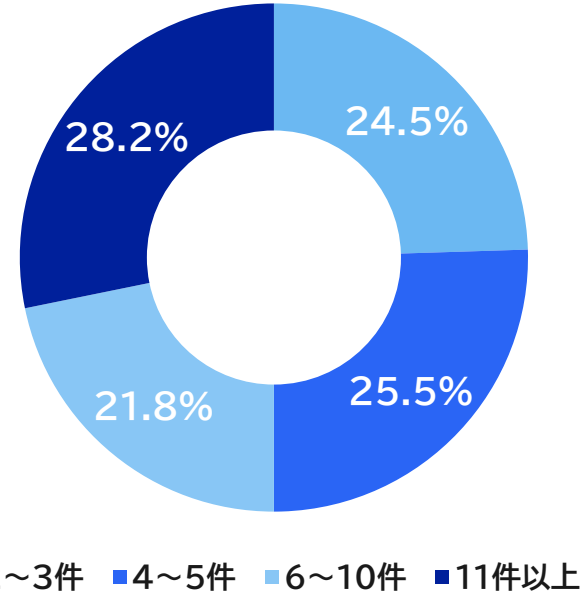
役割 / 案件数 / 役職 の3軸で見た回答者構成（n=110）

① 役割



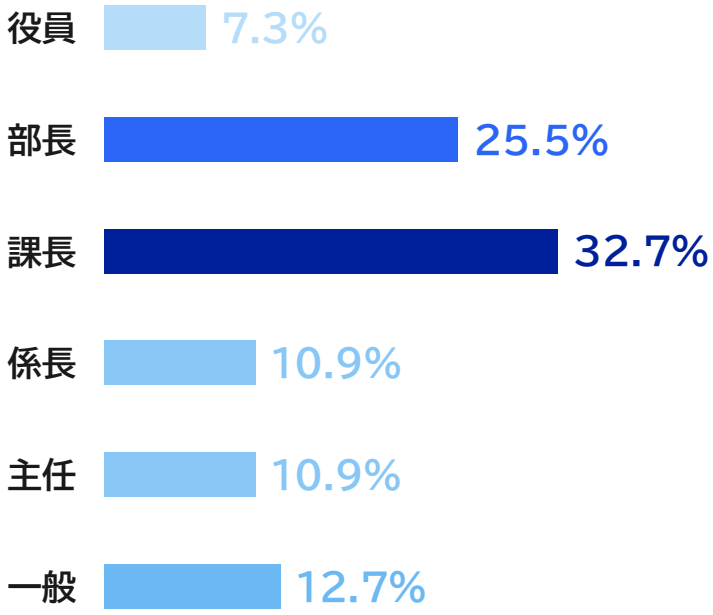
n=110　PM33 / PMO36 / 両方41

② 担当案件数



n=110

③ 役職

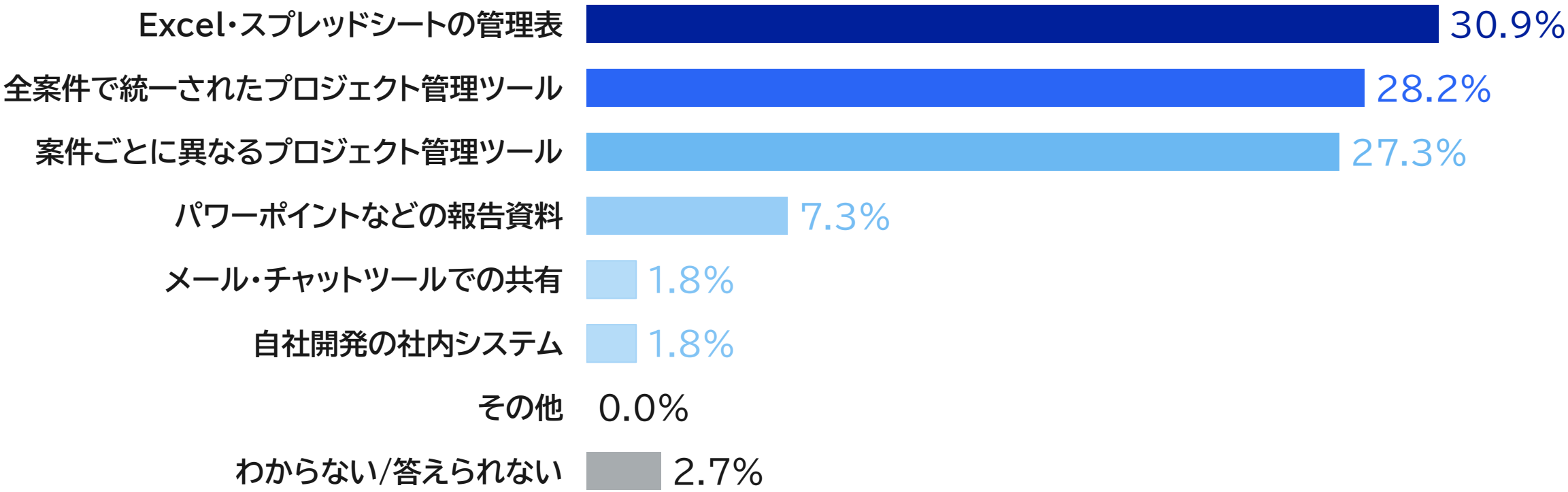


役職者72(65.5%) / 現場38(34.5%)

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q1　あなたは、担当している複数の案件の進捗や課題を、主にどのような方法で管理していますか。

大手企業のPM・PMO業務従事者の複数案件管理方法では、「Excel・スプレッドシートの管理表」が30.9%で首位となり、「全案件で統一されたプロジェクト管理ツール」が28.2%で続きました。

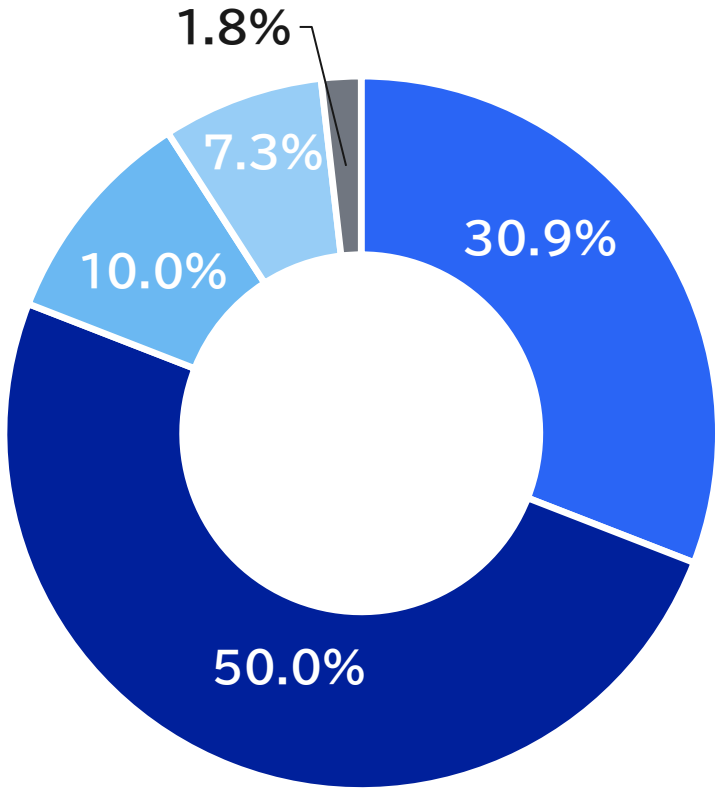


調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q2　あなたが担当する案件では、進捗や課題の管理方法・フォーマットは案件ごとに分かれていますか。

進捗や課題の管理方法・フォーマットについては、半数が「多くの案件で分かれている」と回答し、「すべての案件で分かれている」も30.9%を占め、案件ごとの管理分散が浮き彫りになりました。



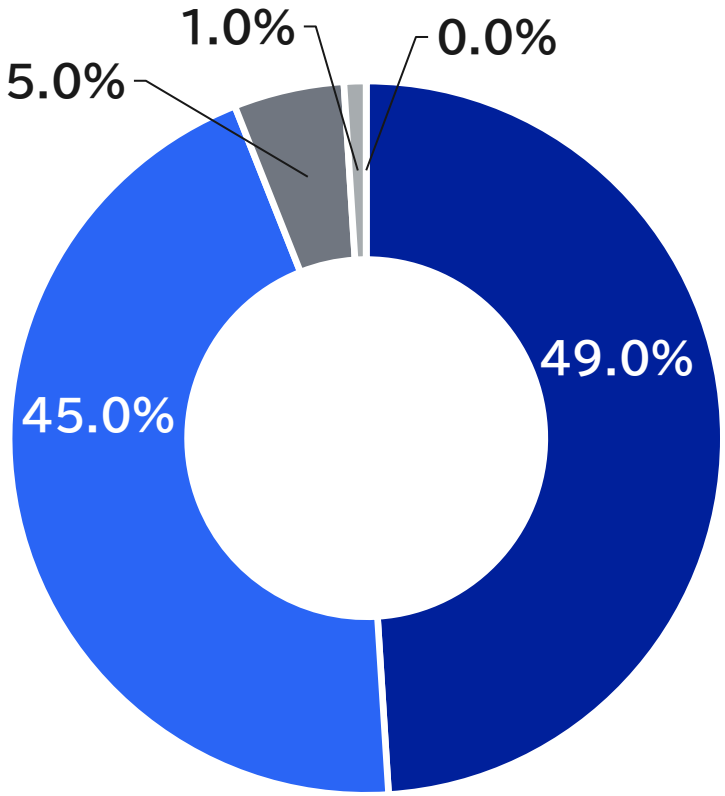
30.9%	すべての案件で分かれている
50.0%	多くの案件で分かれている
10.0%	一部の案件で分かれている
7.3%	すべての案件で統一されている
1.8%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q3　Q2で「すべての案件で分かれている」「多くの案件で分かれている」「一部の案件で分かれている」と回答の方にお伺いします。あなたは、案件に関する連絡やファイルのやり取りが、メール・チャット・会議など複数の場所に分かれていることで、状況の把握がしづらいと感じることはありますか。

案件に関する連絡やファイルのやり取りの分散について、「頻繁に感じる」（49.0%）と「たまに感じる」（45.0%）を合わせ、9割超が状況把握のしづらさを実感していることが判明しました。



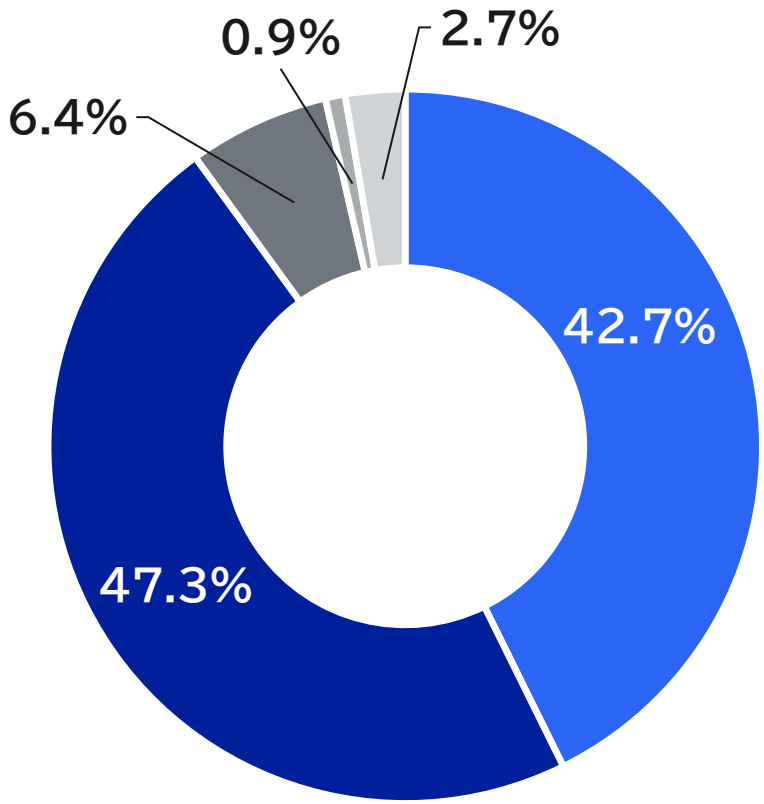
49.0%	頻繁に感じる
45.0%	たまに感じる
5.0%	あまり感じない
1.0%	全く感じない
0.0%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=100

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q4　あなたは、案件ごとの進捗確認はできていても、複数の案件を横断して全体の状況（優先順位・遅延の兆候・リスク・負荷の偏りなど）を把握することに難しさを感じていますか。

大手企業のPM・PMO業務従事者の9割が、複数案件を横断した全体状況の把握の難しさを「非常に感じている」（42.7%）または「やや感じている」（47.3%）と回答しました。



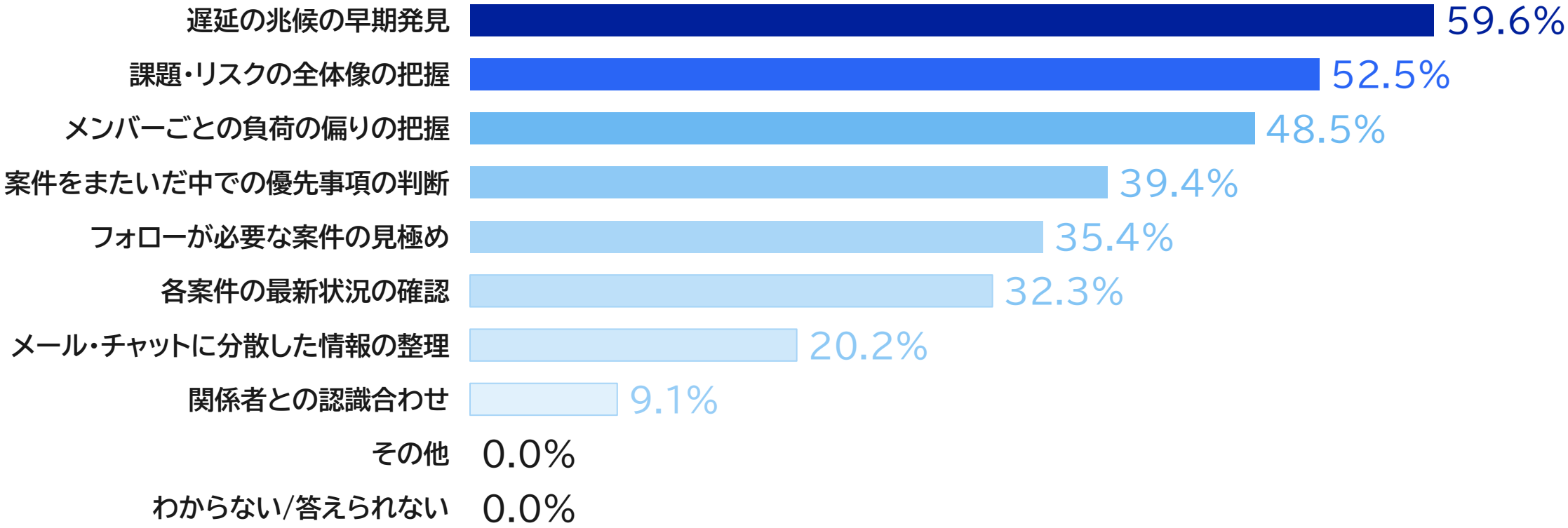
42.7%	非常に感じている
47.3%	やや感じている
6.4%	あまり感じていない
0.9%	全く感じていない
2.7%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q5　Q4で「非常に感じている」「やや感じている」と回答した方にお聞きします。複数案件を横断して把握するうえで、難しいと感じることを教えてください。（複数回答）

横断把握で難しいと感じることでは、「遅延の兆候の早期発見」が59.6%で最も多く、「課題・リスクの全体像の把握」も52.5%にのぼっています。

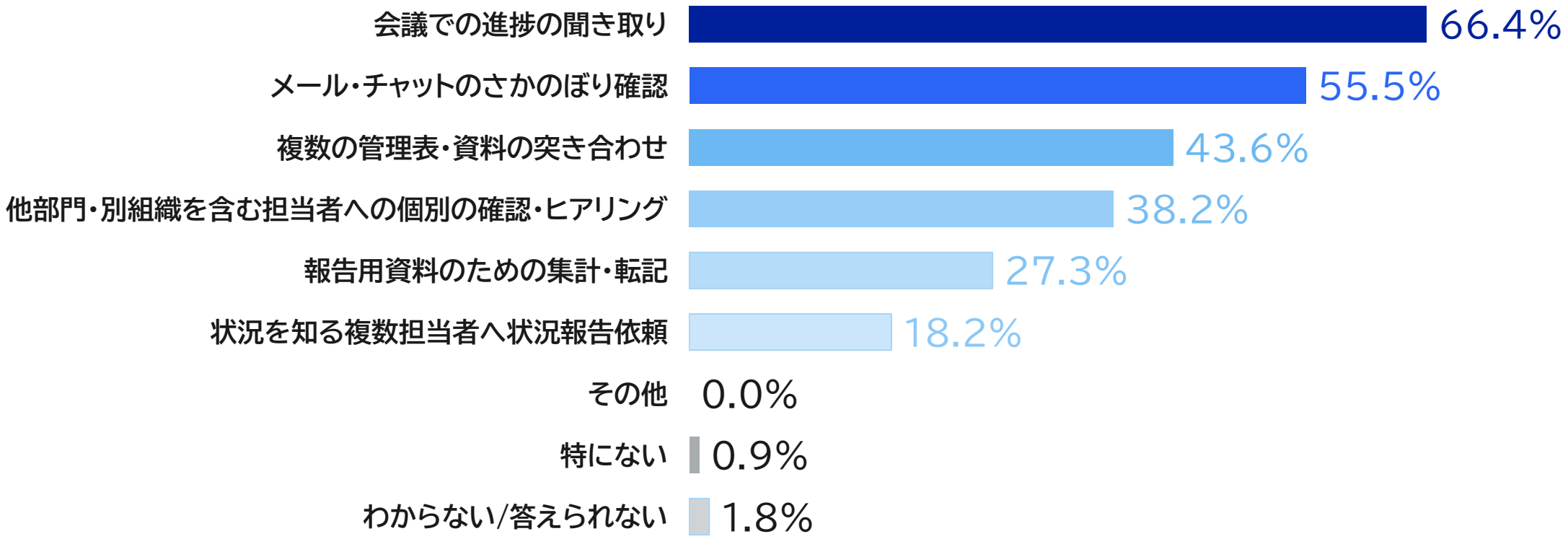


調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=99

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q6　あなたが、複数案件の状況を把握するために行っている作業を教えてください。（複数回答）

複数案件の状況把握のために行っている作業は、「会議での進捗の聞き取り」（66.4%）を筆頭に、「メール・チャットのさかのぼり確認」（55.5%）が上位となりました。

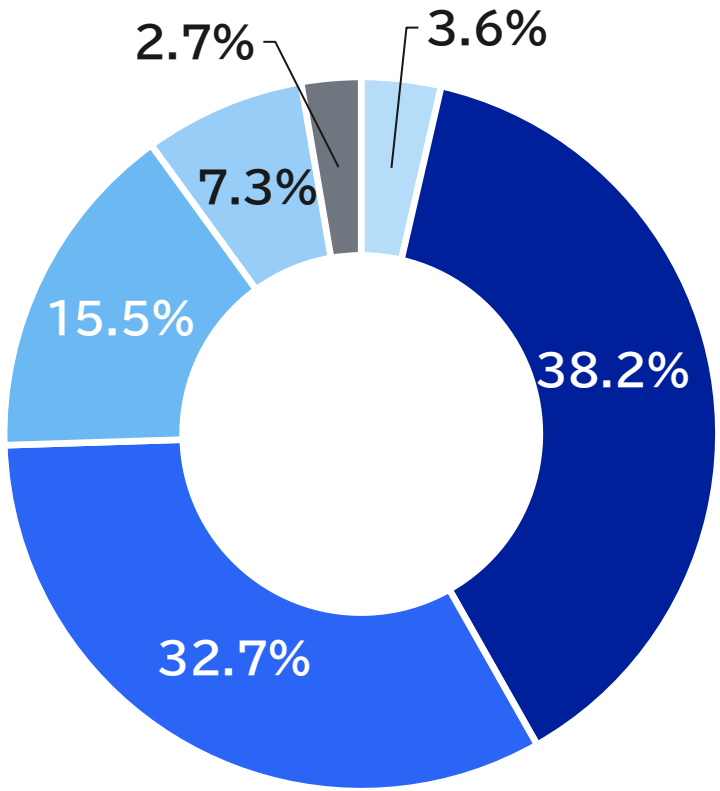


調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q7　あなたが、複数案件の状況確認や報告用の集計に費やしている時間は、1週間あたりどの程度ですか。

約4割が状況確認・報告集計に「1時間以上3時間未満」を費やしており、
週3時間以上を費やす層は55.5%を占めています。



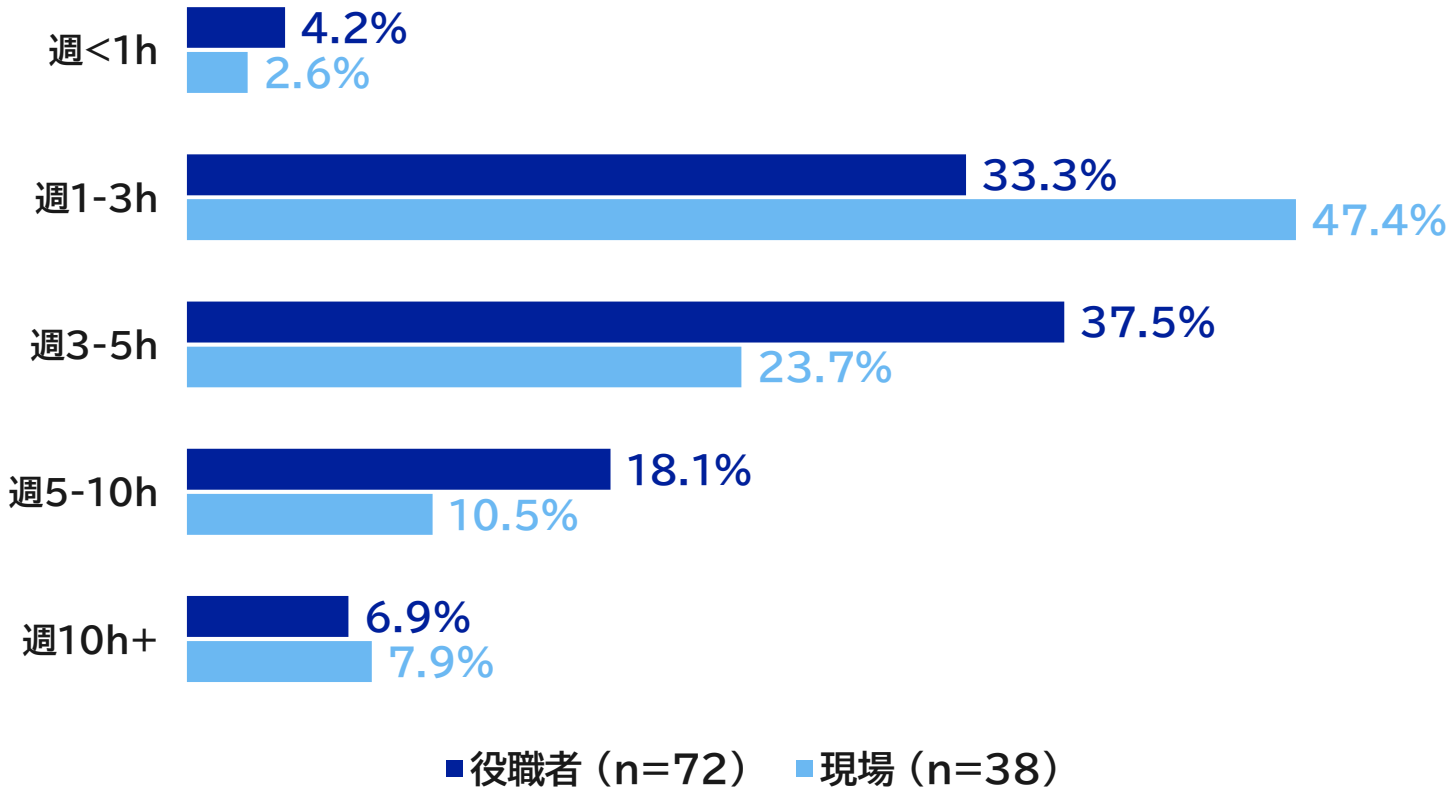
3.6%	1時間未満
38.2%	1時間以上3時間未満
32.7%	3時間以上5時間未満
15.5%	5時間以上10時間未満
7.3%	10時間以上
2.7%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q7　時間 × 役職者／現場（2系列）

役職者層が週3時間以上62.5%、現場42.1%。役職者側に業務時間の負荷が偏ります。



週3時間以上	
役職者	62.5%
現場	42.1%

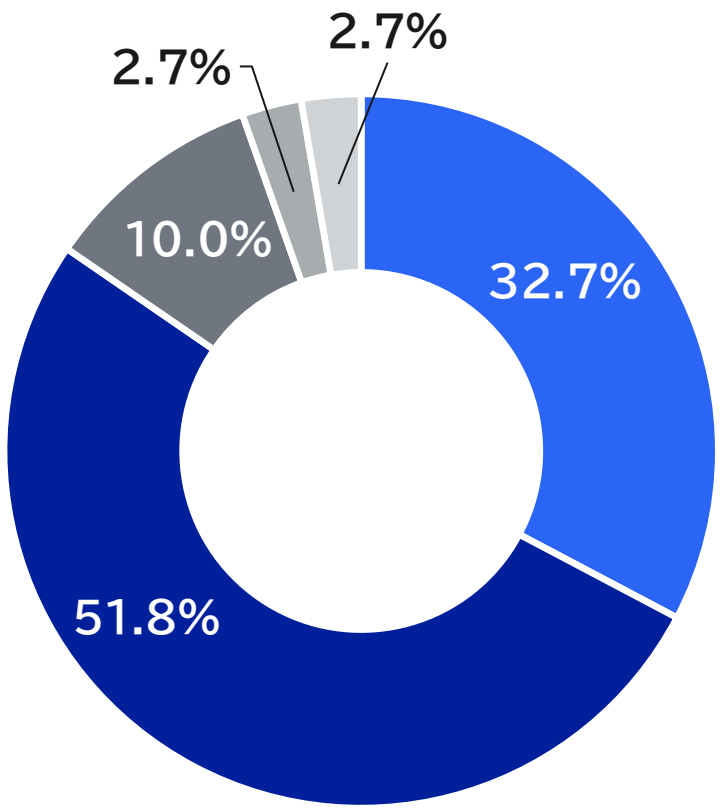
STech IからのPoint

役職者では、現場に比べて状況確認・報告集計に時間を要する傾向が見られます。個別案件の確認に加え、複数案件の情報を集約・比較し、報告や判断につなげる負荷が役職者側に現れている可能性があります。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q8　あなたは、複数案件の全体状況の把握に時間がかかったことで、案件へのフォローや対応の判断が遅れた経験はありますか。

8割超が、全体状況の把握に時間がかかったことで「対応判断が遅れた経験がある」ことが判明しました。



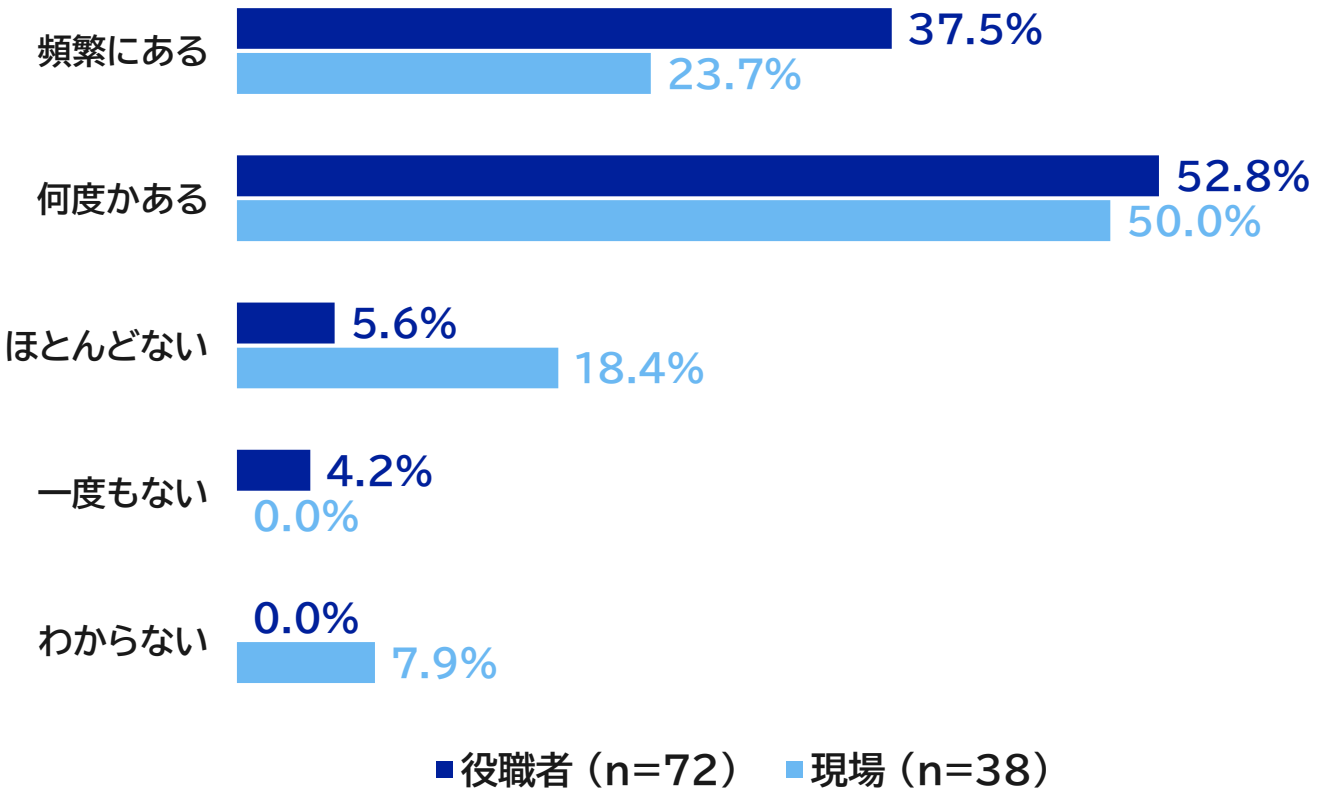
32.7%	頻繁にある
51.8%	何度かある
10.0%	ほとんどない
2.7%	一度もない
2.7%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q8 判断遅延 × 役職者／現場（2系列）

役職者90.3% vs 現場73.7%（+16.6pt）。判断遅延は役職者側に偏ります。



判断遅延あり（計）

役職者	90.3%
現場	73.7%

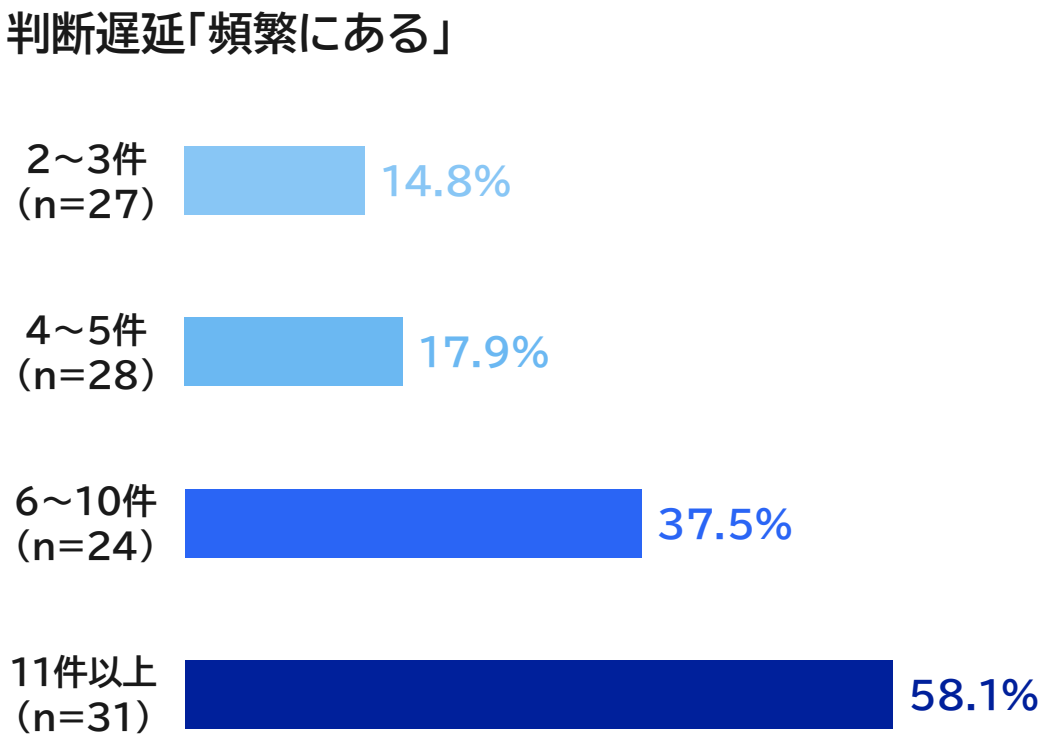
STech IからのPoint

役職者では、状況確認・報告集計に時間をかけている割合が現場より高い一方、対応判断の遅延経験も多い結果となりました。情報収集に時間を費やしても、案件横断で状況を整理し、優先順位を判断することにはなお負荷が残っている可能性があります。一方、現場では個別案件への対応、役職者では複数案件の集約・判断に課題が現れていると考えられます。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q8　担当案件数 × 判断遅延の深刻度

担当案件数が増えるほど、判断遅延は「頻繁に起きる」水準へ移ります。



※ 担当案件数は、対象者抽出調査（スクリーニング）で取得した割付軸です。

判断遅延「頻繁にある」

11件以上	58.1%
2～3件	14.8%

STech IからのPoint

担当案件数が増えるほど、判断遅延が頻繁に起きる傾向が見られます。案件数の増加により、各案件の状況把握や優先順位づけが複雑になり、判断に必要な情報を整理する負荷が高まる可能性があります。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q7×Q8　時間 × 判断遅延

確認・集計に時間をかけても、判断遅延は避けられていません。



※Q7で「わからない/答えられない」と回答した3名を除いたn=107を集計対象としています。
「判断遅延あり（計）」はQ8で「頻繁にある」「何度かある」と回答した割合の合計です。
両群の差は+7.6ptで、統計的に有意な差ではありません。

判断遅延あり（計）	
週3h以上	90.2%
週3h未満	82.6%

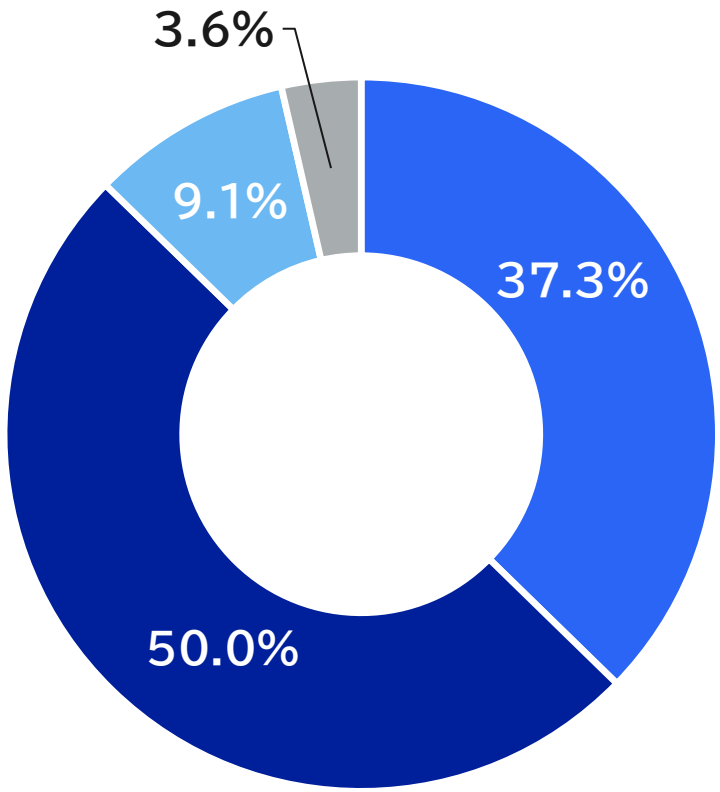
STech IからのPoint

確認・集計に時間をかけている層でも、判断遅延の経験は少なくありません。情報収集に時間をかけるだけでは、案件横断での判断を十分に支えられない可能性があり、情報の集約・自動集計・横断的な可視化など、確認方法そのものの見直しが重要です。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q9　あなたは、現場のタスク・進捗の管理と、経営層や関係者への報告用の資料・データの作成を、別々の仕組みやファイルで行っていますか。

現場管理と報告用資料については、半数が「一部は同じ仕組みで行っている」と回答し、
「ほぼ同じ仕組みで一元的に行っている」層は1割未満にとどまっています。



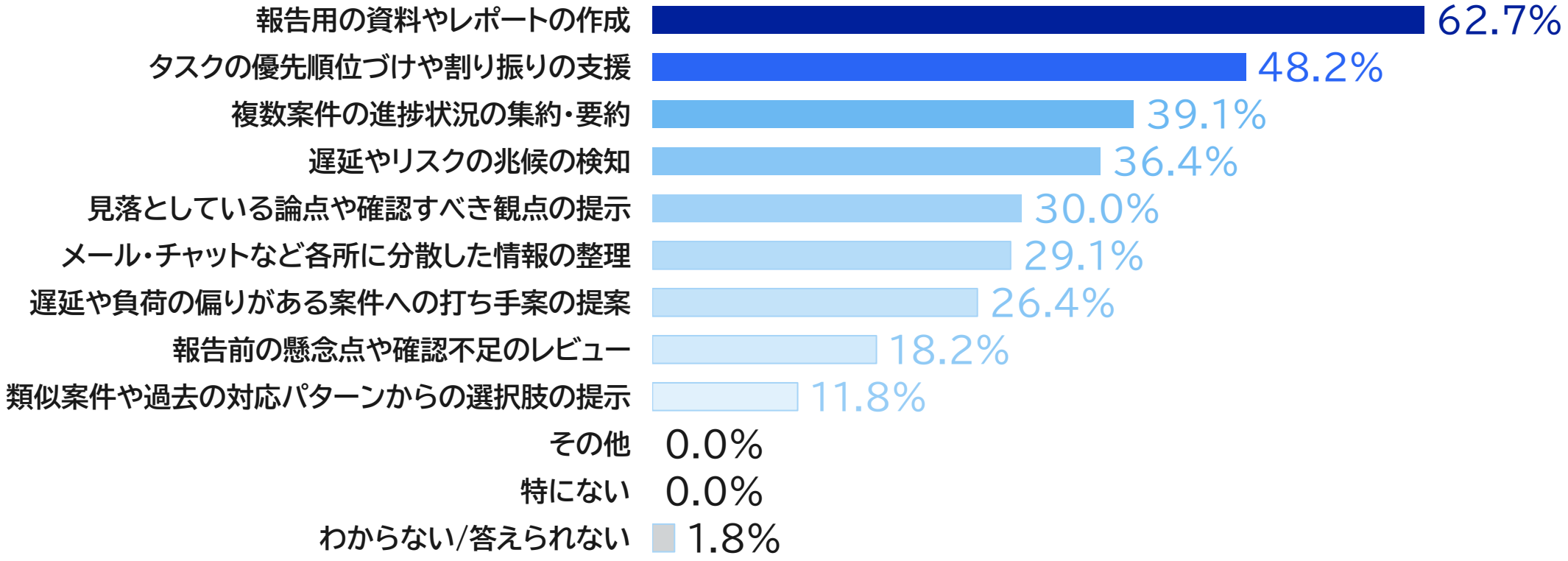
37.3%	すべて別々の仕組みで行っている
50.0%	一部は同じ仕組みで行っている
9.1%	ほぼ同じ仕組みで一元的に行っている
3.6%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q10　あなたが、プロジェクト管理の業務で生成AIやAIエージェントで実現できるとよいと思うことを教えてください。（複数回答）

AIで実現できるとよいと考えることについては、
第1位「報告用の資料やレポートの作成」（62.7%）、
第2位「タスクの優先順位づけや割り振りの支援」（48.2%）となりました。

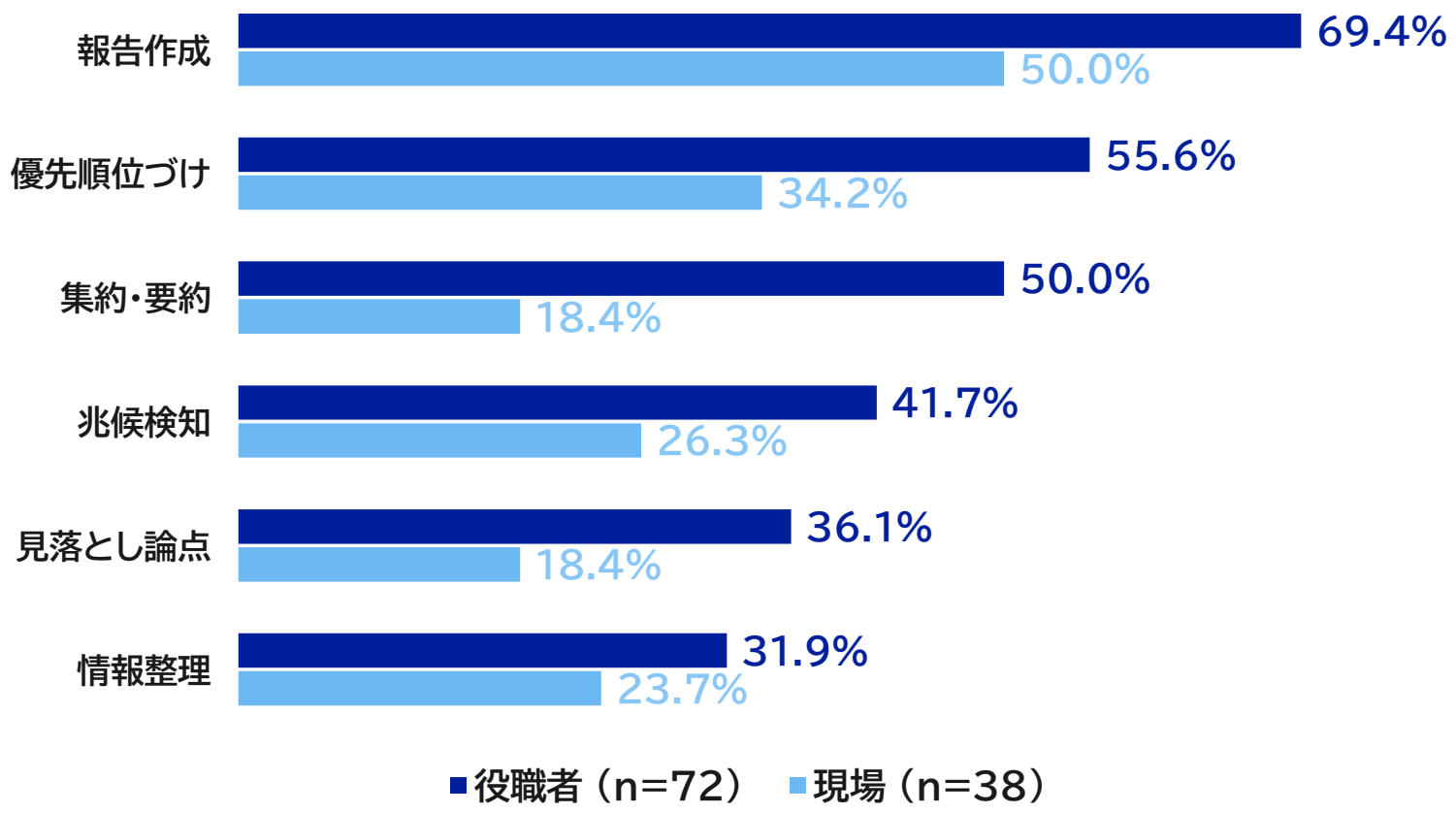


調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q10　AI期待 × 役職者／現場（2系列）

役職者は現場を全項目で上回る。差が最も大きいのは「集約・要約」の+31.6pt。



「集約・要約」への期待

役職者	50.0%
現場	18.4%

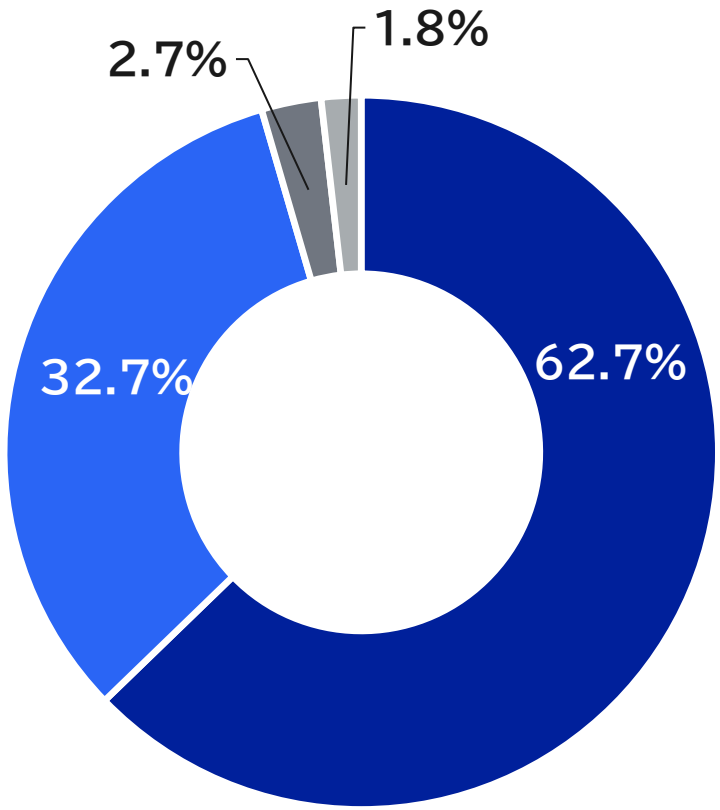
STech IからのPoint

現場では報告作成など個別業務の効率化、役職者では複数案件の集約・要約や優先順位づけへのAI期待が目立ちます。役職者側では、状況確認・報告集計に時間をかけながら、情報を案件横断の判断につなげる負荷が高まっている可能性があります。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q11　あなたは、複数案件を横断的に把握できるようにする管理方法の見直しについて、どのように捉えていますか。

複数案件を横断的に把握できる管理方法の見直しについて、
6割以上が「重要であり、すでに見直しに着手している」ことがわかりました。



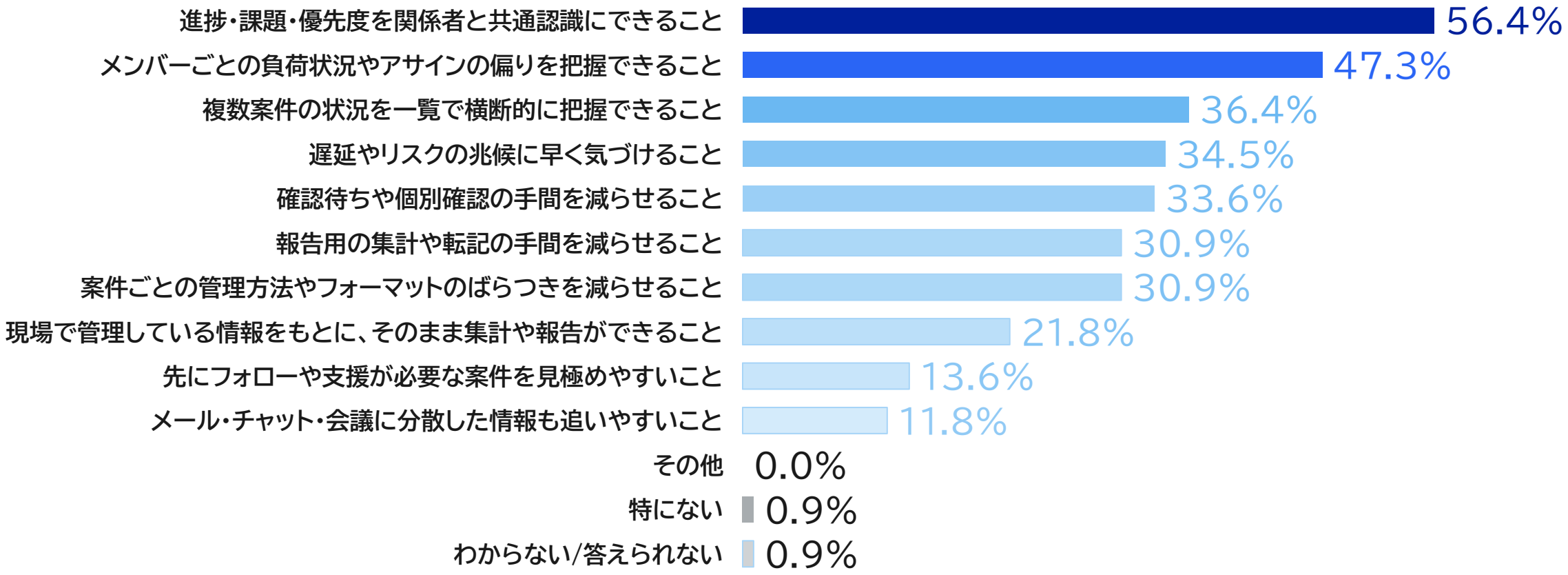
■	62.7%	重要であり、すでに見直しに着手している
■	32.7%	重要だと思うが、着手できていない
■	2.7%	見直しの必要性は感じていない
■	1.8%	わからない/答えられない

調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Q12　あなたが、複数案件を管理する方法や仕組みに求めることを教えてください。（複数回答）

複数案件の管理に求めることでは、「進捗・課題・優先度を関係者と共通認識にできること」（56.4%）、「メンバーごとの負荷状況やアサインの偏りを把握できること」（47.3%）が上位に挙げられました。

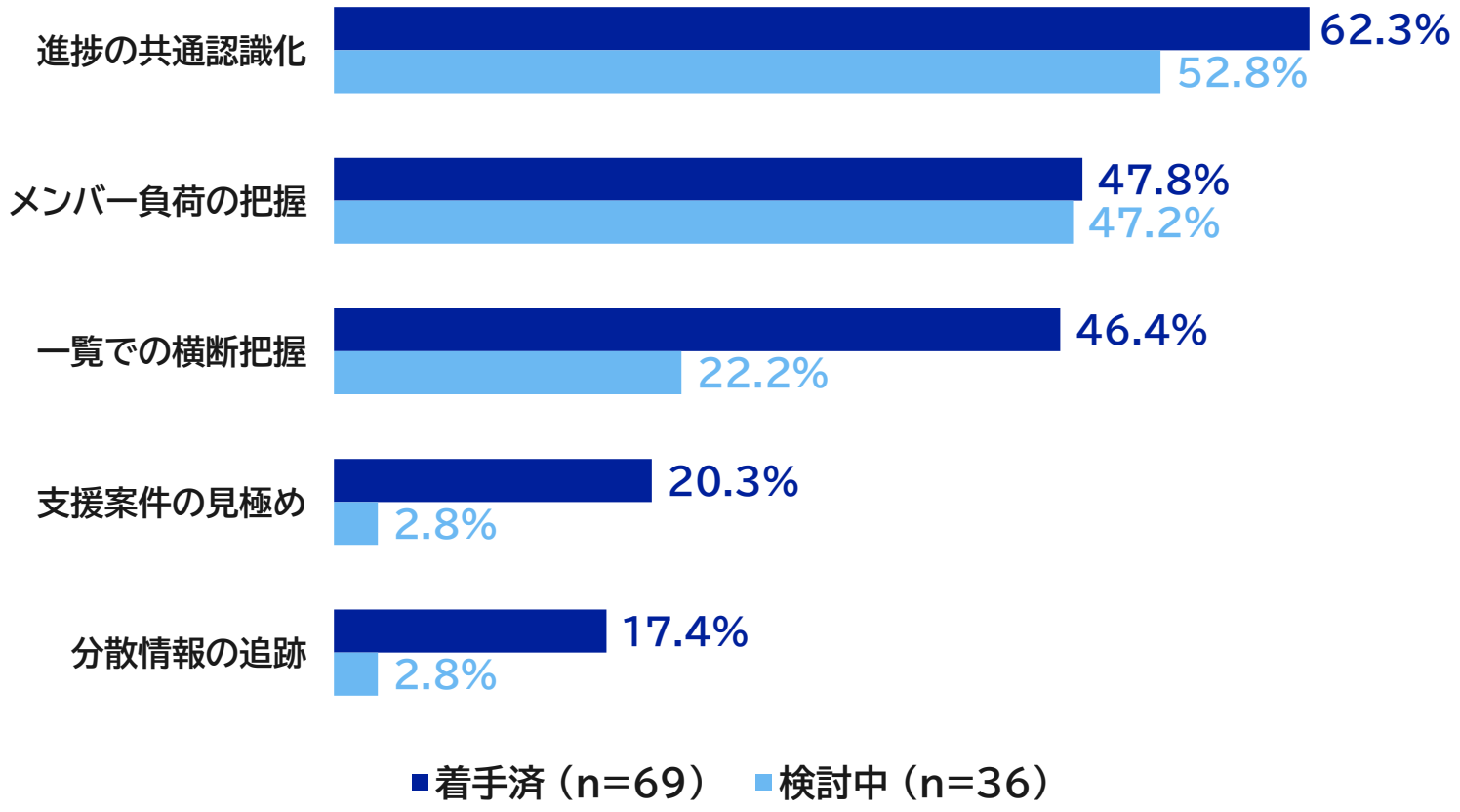


調査期間：2026年8月6日～同年8月7日
ITプロジェクトの複数案件管理に関する実態調査｜n=110

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

【Q11×Q12】見直し着手 × 求める仕組み

求めることの上位2項目は両層でほぼ同水準。差がつくのは横断一覧と支援対象の見極めです。



※ 上位2項目の差（+9.5pt・+0.6pt）は統計的に有意ではありません。
「支援案件の見極め」「分散情報の追跡」は検討中層の実数が少なく、傾向値として参照ください。

「一覧での横断把握」

着手済	46.4%
検討中	22.2%

STech IからのPoint

上位2項目は着手状況にかかわらず求められる初期要件です。差がつくのは一覧での横断把握（+24.2pt）で、着手して初めて横断の可視化や支援対象の見極めが具体的な要求として立ち上がる可能性があります。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

課題と求められる対策

課 題

確認と集計に時間を奪われ、大手企業のPM・PMOの84.5%が対応判断の遅れを経験

- 進捗や課題の管理方法・フォーマットが案件ごとに分かれている職場は9割を超え、管理手段も「Excel・スプレッドシートの管理表」が30.9%で最多となっている。
- 横断的な全体状況の把握が難しいと感じる層は9割に達し、「遅延の兆候の早期発見」が59.6%で最大の難所となっている。
- 状況把握は「会議での進捗の聞き取り」が66.4%、「メール・チャットのさかのぼり確認」が55.5%と人手に依存し、確認・報告集計に週3時間以上を費やす層も55.5%に及ぶ。
- 判断の遅れが生じる一方、現場のタスク管理と報告用資料を一元的に行えている層は9.1%にとどまっている。

対 策

案件を横断して可視化できる基盤とAI活用で、判断に必要な情報の集約・整理を支援

求められるのは、進捗・課題・優先度を関係者と共通認識にできる横断的な管理基盤です。見直しを重要と捉える声が95.4%に達する今、報告作成や優先順位づけをAIが支援することで、判断にかかる負荷の軽減が期待されます。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

なぜ判断が遅れるのか｜情報・管理・判断の3層

判断遅延は作業負荷ではなく、情報／管理／判断の3層で分散が起きている構造的な問題。

	状　態	主な症状
情報の分散	メール、チャット、会議、管理表などに情報が散在	状況確認のたびに集め直しが必要
管理の分散	案件ごとにフォーマット・管理方法が異なる	複数案件を同じ粒度で比較できない
判断の分散	誰が何をどの基準で決めるかが定まらない	優先順位や支援対象の判断基準が曖昧

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

ツール選定より先に整理すべき管理要件

対応方針を選ぶ前に、次の6要件を自社基準として定義できているか整理することが、意思決定を早めます。

1

同一粒度の一覧化

複数案件を同じ粒度で一覧化できる

2

共通項目の定義

進捗・課題・優先度・担当者・期限を共通項目にできる

3

横断比較の枠組み

案件横断で負荷とリスクを比較できる

4

集計・転記の削減

報告用の集計や転記を減らせる

5

更新履歴の追跡

情報の更新者と更新日時を追える

6

判断基準の共通化

優先順位や支援対象の判断基準を共通化できる

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

複数案件管理を整える代表的な4つの対応方針

自社の案件数・変更耐性・整備段階に応じて選択肢を検討してください。

選択肢	向いている状況	限界	こんな企業に向く
Excel/スプレッドシート継続	案件数が少ない	横断把握・履歴連携が弱い	小規模・短期
既存運用のルール強化	ツール変更が難しい	人手依存が残る	過渡期の改善
統一プロジェクト管理基盤	横断可視化が必要	定着設計が必要	複数部門・複数案件
AI支援つき運用	報告・要約負荷を下げたい 判断スピードを上げたい	元データの整備が前提	共通基盤を整えた企業

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

複数案件の情報を“集める時間”から、“判断する時間”へ｜Asana

PM・PMOの判断の速さを、Asanaが支えます。

情報収集が
判断を遅らせる
散らばる情報が判断時間を圧迫

55.5%
確認・報告集計に
週3時間以上を費やしている

84.5%
対応判断が遅れた経験がある

必要なのは
管理表を増やすことではなく、
進捗・課題・優先度・負荷を同じ場所で
見渡せる環境

情報を一元化し、判断に必要な視点を揃える

Asanaが提供する主な機能

01 プロジェクト管理
情報・担当者・期限・会話・文書を一元化

02 複数案件・負荷の一覧化
案件ごとの進捗とメンバーの
仕事量を横断把握

03 Asana AI
進捗・リスク・課題を分析し、
要約やステータス報告を支援

情報を集める時間を、判断する時間に変える。

分散した情報
担当者・期限・会話・文書

→

Asanaがハブとなる
案件・タスクを一元管理

→

判断・行動
進捗・課題・負荷・次の一手

Asana AIが業務データを分析し、要約やステータス報告の作成を支援

詳しくはこちら：https://collab.sojitz-ti.com/asana/

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

Asanaの適合条件を確認する

Asanaは、案件横断の可視化と共通運用が定着できる条件下で効果を発揮します。

◆ Asanaが効果を発揮しやすい業務特性

- 案件横断で進捗・課題・負荷を可視化する必要がある
- 報告作成や状況集約に工数が発生している
- 関係者間で参照する情報が分散している
- 複数部門で共通の管理項目や運用ルールを定義できる

◆ Asanaが適さない可能性がある状況

- 案件数が少なく、既存の表計算運用で十分回っている
- 案件横断の共通項目や入力ルールをまだ定義できない
- 現場管理と報告管理の役割分担が未整理である

これらに当てはまる場合は、導入可否の判断より先に、既存運用の整理と共通ルールの定義が必要です。

◆ Asanaで対応しやすい課題（4領域）

複数案件の一覧把握

統一フォーマットで並列表示

担当者・期限・会話・文書の集約

案件情報を一箇所に

進捗・課題・負荷の横断把握

複数案件をまたいだ比較

要約やステータス報告の支援

AI活用で報告負荷を軽減

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

導入判断チェックリスト

自社の複数案件管理について、課題の所在と導入検討の必要性を確認できます。

- ☐ 案件・部門ごとに管理方法やフォーマットがばらついている
- ☐ 案件横断で進捗・課題・負荷の全体状況を把握できない
- ☐ 報告作成や状況集約に時間がかかっている
- ☐ 優先順位や支援対象の判断が属人化している
- ☐ 担当者・期限・承認状況をすぐ確認できない
- ☐ 必要な案件情報が複数のツールや資料に散在している

◆ 導入前に確認すべき5点

- 各案件で最低限そろえる入力ルール
- 案件横断で見たい指標の統一
- 現場管理と経営報告の役割分担
- AI活用の前提となるデータ整備
- 既存ツール・システムとの連携方針

▸ 3つ以上当てはまる場合、個別の管理表を増やすのではなく、案件横断で管理できる基盤の導入検討をおすすめします。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

検討を進めるための6ステップ

問い合わせや導入検討の前に、次の6ステップで自社内の準備を進めることをお勧めします。

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6
洗い出し	**項目定義**	**分断特定**	**試行**	**効果測定**	**段階拡大**
管理対象となる案件・業務を洗い出す	共通して持つ項目を決める	情報・管理・判断の分断箇所を特定する	小規模な案件または部門で試行する	週次確認・報告・支援判断の効果を測定する	対象部門と案件を段階的に広げる

段階的なアプローチにより、ツール選定リスクを抑えながら、実運用に耐える管理基盤を構築できます。

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.

お問い合わせ

- 双日テックイノベーション株式会社
- 所在地：〒102-0084 東京都千代田区二番町3-5
- WEB：https://collab.sojitz-ti.com/asana/
- お問い合わせ：https://collab.sojitz-ti.com/asana/contact/form.php

- 調査・制作｜株式会社IDEATECH

©Sojitz Tech-Innovation Co., Ltd. All Rights Reserved.